

保幼小中一貫教育だより



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第7-②号 R1.11.1

京都大原学院 教育委員会先進校視察研修 **その2** (令和元年10月2日(水))

《学校紹介—京都大原学院②》

児童生徒が年々減少し、学校の存続をめぐる地域全体で協議する中で、少人数での教育に対する不安から近隣の学校と統合する案もでしたが、「地域には学校が必要」という思いも強く、最終的に小中一貫校として存続することに。小1からの英語活動、5年生からの教科担任制、大人になる科など地域・保護者と一体となった特色ある教育活動を展開されています。



前号に引き続き、京都市義務教育学校「京都大原学院」の視察内容をご紹介します。

(感想抜粋—東能勢中学校 松山教頭先生)

京都大原学院（京都市立大原小中学校）は、東能勢小学校、中学校と似た学校規模の学校であり、取り巻く自然環境も似ている。もとの大原小中学校が隣り合わせにあったことを活かして、4・3・2制の施設一体型・義務教育学校として運営されている。オープンな雰囲気の中、それぞれの学年で少人数の授業が展開されていた。実社会に出る前に生きていける力をつけさせたいという願いで、「園」ではなく「院」と命名されたという。そこに、学びの過程で生徒自らが学ぶ姿勢を大切にしているのを感じた。



廊下の一角に本棚を設置



放課後の子どもたちの居場所になっている教室

(感想抜粋—太田委員)

少人数の中で育った子どもたちにとって、コミュニケーション力が課題になるとのことで、様々な人とふれあう機会を可能な限り多く持つよう工夫されています。ハワイ大学の留学生との交流を6年間続けられ、9年生が留学生を案内したり、ハワイを訪問し現地の中学校で大原を英語で紹介したりしています。また、9年生は「大原提言」という「大原をより良くするために、どのようなことができるか」について、地域の皆さんの前で発表する活動をしています。

(感想抜粋—岸本委員)

豊能町からお願いしていた多くの質問事項に、丁寧にお答えいただいたことに感謝しています。校長先生のお答えから、学校に対する大きな愛情と強い信念を感じました。また、学校運営協議会の理事長である田家さんが（地域の代表の方が）、学校を案内してくださったことにも驚きと感銘を受けました。豊能町でもお世話になっている小松先生も協議に参加くださり、「employ ability（雇用され得る能力）」の考え方を教えていただけたことも大きな収穫になりました。

当日は、大変お忙し中、石飛校長先生はじめ先生方、田家委員長様や小松先生などたくさんの方々にお世話になりました。誠にありがとうございました。

がんばれ！！とよのっ子 「青少年表彰・第1号」

10月16日に、U-19女子サッカー日本代表選手として活躍中の、豊能町在住（ときわ台）の田畑 晴菜さん（高2）が選ばれ、町長から表彰状が送られました。今月末からタイで開催されるアジア地区予選に出場される予定です。



小・中学校をつなぐ廊下には子どもたちの活動を大きなパネル写真にして展示されていました



学校運営協議会・田家理事長さんから学校の歴史を説明いただきました



小学1年生の給食時間の様子